



2021年9月14日

日本鉄道労働組合連合会

## JR東海連合 第38回定期大会

# グループ労組の発展と組合員と家族の 幸せの実現をめざし全組合員が一丸に！

JR東海グループ労働組合連合会（JR東海連合）は9月13日、名古屋マリオットアソシアホテルにおいて第38回定期大会を開催し、「安全最優先の行動と組織強化、さらなる連帯活動の充実を図り、JR東海連合に結集する労働者がONEチームで、この難局を乗り越え、組合員と家族の幸せを実現しよう！」をスローガンに掲げ、難局を乗り越え、展望を切り拓くための意志統一を図った。



冒頭、挨拶に立った尾内裕昭会長（JR連合副会長・JR東海ユニオン中央執行委員長）は、①安全の確立、②組織の充実・強化、③グループ全体の労働条件の向上について所信を述べるとともに、「コロナ禍の長期化により、JR産業を取り巻く経営環境は危機的状況が続いている。JR東海連合は、様々な職種・業態で働く仲間の連合体として、さらに一体感のある組織をめざし、『ONEチーム』となって運動を積み上げ、この難局を乗り越えていく」との決意を示した。



また、大会には、JR東海の中村明彦常務執行役員が来賓として出席、JR連合からは荻山市朗会長、政所大祐事務局長、鎗光俊勝労働政策部長が出席した。

議事では、執行部から提起された議案に対して加盟各単組24名の代議員から方針を補強すべく、現下の厳しい経営状況やコロナ禍における労使の取り組み、総対話行動・教育活動等の組合活動を模索する意見、ウィズコロナにおける課題認識、公的支援制度を求める政策政治活動のさらなる展開、2022春闘に向けた支援や連携を求める発言があった。執行部からの答弁、鎌田隆司事務局長（JR東海ユニオン中央執行副委員長）の総括答弁を経て、すべての議案が満場一致で承認され、最後に尾内会長の「団結がんばろう」で締めくくられた。